

かわらばん

tottori red cross hospital magazine

vol.
124

2019.6

ご自由にお取りください

発行元：広報委員会
発行責任者：広報委員長

中高年女性に多い産婦人科関連疾患

産婦人科 竹内 薫

1. 萎縮性腔炎、老人性腔炎、外陰搔痒症

閉経後や卵巣摘出後の女性で、女性ホルモンの低下により腔粘膜の萎縮、菲薄化、伸展性の低下、デーデルライン桿菌の減少による腔の自浄作用の低下を来す。主な症状としては、黄色帯下の増加、少量の性器出血、腔入口部の違和感、乾燥感、搔痒感、性交痛などである。エストロゲン製剤（エストリオール）の腔錠や内服薬、外用剤で治療する。

2. 骨盤臓器脱（子宮脱、膀胱脱、直腸脱）

閉経によるエストロゲンの低下や妊娠・分娩による骨盤支持組織、子宮支持組織の脆弱化が主な原因で、骨盤内臓器の脱出が起こる。高齢の多産婦に好発し、性器の下垂感・違和感に加え、排尿困難や尿失禁、頻尿などの泌尿器科症状を伴うことがある。子宮脱については、脱垂の程度により、I度（子宮下垂）、II度（不全子宮脱）、III度（完全子宮脱）に分類される。I～II度に対しては、保存的治療としてペッサリーの挿入や骨盤底筋体操、II～III度に対しては、手術療法として腔式子宮全摘術および前後腔壁形成術、高齢者には腔閉鎖術（Le Fort手術）を行う。

3. 排尿障害（尿失禁、頻尿など）

40歳以上の女性の約40%に認められる。大半（50～70%）は腹圧性尿失禁（咳や労作で尿が漏出する）であり、15～30%が切迫性尿失禁（尿意は感ずるものトイレに着くまでに尿が漏出するのを抑制できない）、5～20%が混合型である。パッドテスト、膀胱造影その他の検査で診断し、骨盤底筋強化法、薬物療法（α刺激薬、エストロゲン、抗コリン薬、漢方薬など）、手術療

法（膀胱頸部吊り上げ術、前壁形成術など）で治療する。昼間8回、夜間2回以上の排尿がある場合、頻尿といえる。尿検査、尿量測定などの検査を行い、糖尿病や多飲を除外したあと、膀胱炎、神経性頻尿、膀胱容積の減少（間質性膀胱炎など）、神經因性膀胱などを鑑別する。

4. 骨粗鬆症、骨量減少症

女性ではいわゆる最大骨量が低く、かつ閉経後の骨量減少が急激なため、平均すると65歳くらいで骨折閾値に達する。脊椎圧迫骨折、大腿骨頸部骨折などの基礎疾患として重要である。X線検査、DXA法（二重エネルギーX線吸収測定法）などの骨塩定量検査で診断する。骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインの薬物治療開始基準などに基づいて、治療を行う。薬物治療（多種類の薬剤が開発されており、閉経後年数、骨量減少の程度、コンプライアンスなどに基づいて専門医による使い分けが必要である。詳細割愛）の他に、食事・運動などの生活習慣も重要である。



Information & News

本館2階に図書コーナーができました
～ご自由にご覧ください～



ご利用案内

- ・利用時間
7:00～18:00
- ・ご利用後は本棚へ返却してください
- ・図書は院内に限り持ち出し可能です



今年で64回目! ANAより
「しあわせの花 すずらん」の贈呈

5月29日(水)13:00～多目的ホールにて、
全日本空輸株式会社(ANA)のご厚意による、すずらんの花の贈呈式がありました。
昭和31年より始まったこの贈呈式は、今年で64回目をを迎えます。

すずらんの鉢植え3鉢、すずらんの切り花50本、
ANAグループ社員の方による心のこもった手書き
メッセージ入りのしおり500枚を贈っていただきました。



医療機器が新しくなりました!

平成30年度日本損害保険協会寄付金事業により医療機器の整備を行いました。

<機器名称>

超音波診断装置
(GEヘルスケア社:VIVID E90)

<主な機能>

広い視野角で高精度な画像観察が可能な超音波装置です。



<機器名称>

内視鏡ビデオシステム
(オリンパスメディカルシステムズ: VISERA ELITE)

<主な機能>

鮮明な画像の内視鏡手術が可能となり、安全性・正確性が向上し、患者様の負担が軽減されます。



患者の皆様へ

鳥取赤十字病院は、地域の皆様に信頼される病院を目指しています。

当院は急性期の医療、専門的な医療を行っておりますが、地域医療支援病院として他の医療機関と連携を密にしておりますので、症状が安定された方はご希望に応じてかかりつけの医師や診療所に紹介させていただくことも可能です。

なお、その際も定期的な検査や病状変化の際は、当院が責任を持って診療いたしますので、ご安心ください。

